

# 安全データシート

改訂日： 平成 28 年 4 月 1 日

製品名：消石灰

## 1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	: 水酸化カルシウム
会社名	: 河合石灰工業株式会社
住所	: 岐阜県大垣市赤坂町 2 0 9 3 番地
担当部門	: 営業部
電話番号	: 0584-71-1122
緊急連絡先	: 0584-71-1122
F A X 番号	: 0584-71-1361

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

物理化学的危険性	火薬類 可燃性・引火性ガス 可燃性・引火性エアゾール 支燃性・酸化性ガス 高压ガス 引火性液体 可燃性固体 自己反応性化学品 自然発火性液体 自然発火性固体 自己発熱性化学品 水反応可燃性化学品 酸化性液体 酸化性固体 有機過酸化物 金属腐食性物質	分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 区分外 分類対象外 分類対象外 区分外 区分外 区分外 分類対象外 分類できない 分類対象外 分類できない
人健康有害性	急性毒性（経口） 急性毒性（経皮） 急性毒性（吸入：ガス） 急性毒性（吸入：蒸気） 急性毒性（吸入：粉塵） 急性毒性（吸入：ミスト） 皮膚腐食性・刺激性 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 呼吸器感作性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発ガン性 生殖毒性 標的臓器・全身毒性(単回暴露) 標的臓器・全身毒性(反復暴露)	区分外 区分外 分類対象外 分類対象外 区分外 区分外 区分外 区分外 区分 2 区分 1 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 区分 1（呼吸器系） 区分 2（肺）
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性 水生環境急性有害性 水生環境慢性有害性	分類できない 分類できない 分類できない

ラベル要素  
絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 皮膚刺激。  
重篤な眼の損傷。  
呼吸器系の障害。  
長期又は反復暴露による肺の障害を起こすおそれ。

注意書き  
安全対策  
: 適切な保護手袋、保護メガネ、防塵マスクを着用すること。  
粉塵、ヒュームを吸入しないこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

応急処置  
: 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗い流すこと。  
皮膚に付着した場合、汚染された衣類を脱ぐこと。  
汚染された衣類は再使用する前に洗濯すること。  
眼に入った場合は、水で注意深く十分に洗い流し、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し洗浄を続けること。  
目に入った場合は、直ちに眼科医に連絡すること。  
皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。  
気分の悪い時は医師の手当て、診断を受けること。

保管  
: 密閉した容器に入れ乾燥した場所で、施錠して保管する。

廃棄  
: 内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

---

### 3. 組成、成分情報

#### 化学物質

単一製品・混合物の区別 : 単一製品  
化学名又は一般名 : 水酸化カルシウム(Calcium hydroxide)  
別名 : 消石灰 (Slaked lime)、(Hydrated lime)、(Calcium hydrate)  
化学式 :  $\text{Ca(OH)}_2$   
化学特性 (化学式又は構造式) :  $\text{Ca(OH)}_2$   
CAS番号 : 1305-62-0  
官報公示整理番号 : (1) - 181  
(化審法・安衛法)  
分類に寄与する不純物及び安定化添加物 : 情報なし。  
濃度又は濃度範囲 : 情報なし。

---

---

#### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 被災者を直ちに新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪いときは、医師の手当て、診断を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を脱ぐこと。  
皮膚を速やかに洗浄すること。  
多量の水と石鹼で洗うこと。  
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。  
気分が悪いときは、医師の手当て、診断を受けること。  
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
- 眼に入った場合 : 直ちに医師に連絡すること。  
きれいな水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。洗眼の際は、まぶたを指で開き入った製品を完全に洗い流す必要がある。洗浄が遅れたり不十分であると障害を生ずるおそれがある。  
気分が悪いときは、医師の手当て、診断を受けること。
- 飲み込んだ場合 : きれいな水で口の中をよく洗浄し、直ちに医師の手当て、診断を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状
- 吸入した場合 : 咽頭痛、咳、灼熱感。  
皮膚に触れた場合 : 刺激、発赤、ざらつき、痛み、皮膚の乾燥、薬傷、水泡。  
眼に入った場合 : 発赤、痛み、重度の薬傷。  
飲み込んだ場合 : 灼熱感、腹痛、胃痙攣、嘔吐。

---

#### 5. 火災時の措置

- 消火剤
- 小火災 : 粉末消火剤、二酸化炭素、散水。  
大火災 : 粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水。
- 特有の危険有害性
- : 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。  
加熱により容器が破損するおそれがある。
- 特有の消火方法
- : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
容器内に水を入れてはいけない。  
消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 消火を行う者の保護
- : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
-

---

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：  
：直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
関係者以外の立入を禁止する。  
作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。  
適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。  
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。  
風上に留まる。  
低地から離れる。  
密閉された場所では、換気をする。
- 環境に対する注意事項：  
：河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。  
環境中に放出してはならない。
- 回収、中和：  
：乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材：  
：危険でなければ、漏れを止める。
- 二次災害の防止策：  
：全ての発火源を速やかに取り除く。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。  
容器内に水を入れてはいけない。  
床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

---

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

- 取り扱い
- 技術的対策：  
：「8. ばく露防止及び保護処置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気：  
：「8. ばく露防止及び保護処置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 安全取扱注意事項：  
：接触、吸入又は飲み込まないこと。  
空気中の濃度を暴露限度以下に保つ為に排気用の換気を行うこと。  
屋外又は換気のよい区域でのみ使用すること。  
取扱後はよく手を洗うこと。
- 接触回避：  
：「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 保管
- 技術的対策：  
：保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設定を設ける。
- 混触危険物質：  
：「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 保管条件：  
：施錠して保管すること。
- 容器包装材料：  
：国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
-

---

## 8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度（暴露限界値、生物学的暴露指標）	日本産業衛生学会（2006年版）：設定されていない。 ACGIH（2006年版）：TLV-TWA 5mg/m <sup>3</sup>
設備対策	: この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼設備と安全シャワーを設置すること。 高温工程で粉塵、ヒュームが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	: 適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	: 適切な眼の保護具を着用すること。 化学飛沫用のゴーグル及び適切な顔面保護具を着用すること。 安全眼鏡を着用すること。 撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル及び顔面シールドを着用すること。
皮膚及び身体の保護具	: 適切な顔面用保護具を着用すること。
衛生対策	: 取扱後はよく手を洗うこと。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	: 白色粉末、又は顆粒、湿潤。
臭い	: データなし。
pH	: 12.4（25℃飽和水溶液）
融点・凝固点	: 580℃（分解）
沸点、初留点及び沸点範囲	: 分解。
引火点	: 不燃性。
爆発範囲	: 不燃性。
蒸気圧	: データなし。
蒸気密度（空気=1）	: データなし。
比重（密度）	: 2.2
溶解度	: 水に微溶。
オクターン/水分配係数	: データなし。
自然発火温度	: 607℃
分解温度	: 580℃
臭いの閾値	: データなし。
蒸発速度（酢酸ブチル=1）	: データなし。
燃焼性（固体、ガス）	: データなし。
粘度	: データなし。

---

---

## 10. 安定性及び反応性

安定性	: 大気中で炭酸ガスを吸収し、徐々に炭酸カルシウムとなる。 加熱すると分解して、酸化カルシウムを生じる。
危険有害反応可能性	: 酸類と反応し発熱する。 強酸化剤と反応する。 水の存在下で、多くの金属を侵し、引火性／爆発性のガス（水素）を生成する。
避けるべき条件	: 空気との接触、加熱。
混触危険物質	: 強酸化剤、酸類。 水の存在下で、多くの金属を侵す。
危険有害な分解生成物	: 酸化カルシウム

---

## 11. 有害性情報

急性毒性	経口： ラット LD <sub>50</sub> 7,340mg/kg に基づき区分外とした。 経皮： データなし。 吸入（粉塵）： データなし。
皮膚腐食性・刺激性	: 眼及び気道を含む全ての身体表面暴露に対し、中程度の刺激性を示す、ヒト皮膚に対して刺激を示すとの文献より区分2とした。 皮膚刺激。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	: ヒト眼に対して刺激を示すとの文献から区分1とした。 重篤な眼の損傷。
呼吸器感受性	: データなし。
皮膚感受性	: データなし。
生殖細胞変異原性	: データなし。
発がん性	: データなし。
生殖毒性	: データなし。
特定標的臓器・全身毒性 （単回ばく露）	: ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの文献より区分1（呼吸器系）とした。 呼吸器系の障害。
特定標的臓器・全身毒性 （反復ばく露）	: ヒト肺を冒すことがあるとの文献から区分2（肺）とした。 長期又は反復ばく露による肺の障害のおそれ。
吸引性呼吸器有害性	: データなし。

---

## 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	: データ不足のため分類できない
水生環境慢性有害性	: データ不足のため分類できない

---

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは地方の公共団体がその処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	: 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

---

---

#### 14. 運送上の注意

: 輸送に関しては、直射日光を避け、容器の破損、漏れの無いことを確認し、衝撃、転倒、落下、破損のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。  
食料や飼料と一緒に輸送してはならない。  
他の危険物や燃えやすい危険物は上積みしない。  
他の危険物のそばに積載しない。

---

#### 15. 適用法令

: 労働安全衛生法施行令 政令第93号18条の2別表第9  
「名称等を通知すべき有害物」317 水酸化カルシウム  
: 海洋汚染防止法施行令 有害液体物質 別表第1  
Z類物質 (71) 水酸化カルシウム

---

#### その他の情報

##### 参考文献

化学物質管理促進法 PRTR・SDS 対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法 SDS 対象物質全データ	化学工業日報社
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧 (増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物 (総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	中央労働災害防止協会編
セッコウ・セツカイ・セメントデータブック	石膏石灰学会
GHS 分類結果データベース	独立行政法人 製品評価技術基盤機構HP
GHS モデルSDS 情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センターHP

---

この安全データシートは、現時点において当社が入手している資料・情報に基づいて作成したものですから、その限りにおける危険・有害性・環境影響その他に関する情報を提供するものです。  
今後、新たに得る知見により記載事項を訂正変更することも有ります。

---